

令和3年度

予算

のお知らせ

令和3年2月15日に開催された組合会において、令和3年度の予算が可決・承認されましたので、以下、その概要についてご説明いたします。

令和3年度 一般勘定予算の概要

- ① 被保険者数は前期比145人増の62、120人、平均標準報酬月額と同1、635円増の43万8、239円、総標準賞与額は同2億87百万円減の947億96百万円を見込みました。
- ② 一般保険料収入は、被保険者数の増加や標準報酬月額増加を主因に前期比1億11百万円増の319億85百万円を計上しました。経常収入全体では、同1億1百万円増の320億23百万円となりました。
- ③ 一方、経常支出において、保険給付費は2年度の新型コロナウイルスの影響を除外するため元年度実績をベースに策定しており、1人当たりの給付費の増加による元年度比2億36百万円増と被保険者数の減少による元年度比4億64百万円減を合わせ、2億28百万円減（前期比では10億59百万円増）の188億94百万円となりました。また、納付金（高齢者医療制度支援のための負担金）は、後期高齢者支援金の前期比2億7百万円増を主因に、同1億95百万円増の116億78百万円を見込みました。健診事業などに充てる保健事業費も新型コロナウイルスの影響を無視できないため、費目により過年度実績をベースに計上しており、前期比2億25百万円増の19億53百万円を計上しました。経常支出全体では、同15億8百万円増

の328億85百万円としました。

- ④ この結果、経常収支差引額は前期比14億7百万円減少し、8億62百万円の赤字となる見込みです。
- ⑤ 経常外収支では、保険給付等の予想外の支出等に備えるため、予備費を21億15百万円計上してあります。
- ⑥ 最終的に、経常収支と経常外収支の合計額である25億円の不足は、同額別途積立金から繰り入れて、収支バランスをとりました。
- ⑦ 以上のとおり、令和3年度の経常収支差引額は、平成29年度以来5期連続の赤字予算計上ということになります。健保組合を取り巻く環境は、依然として高齢者医療制度への過重な納付金負担や医療費の増加などによる厳しい財政状況が続いており、団塊の世代が75歳に到達し始める2022年からは高齢者医療費が急増し、それに伴い現役世代の納付金負担はさらに増大することが見込まれています。健保組合としましては、収支改善へ向けた施策を強化するとともに、保険者機能の発揮に努め、皆さまの健康増進を支え、健康寿命延伸のお役に立てる活動を推進してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和3年度 介護勘定予算の概要

厚生労働省から毎年示達される介護納付金（※）は、前期比1億12百万円増の41億68百万円となりました。この納付金額に見合う収入を確保するた

め、令和3年度の介護保険料率は従来の計算であれば前年度料率から1%引き上げ18%とするところですが、令和3年度より特定被保険者制度を導入することによる効果を織り込み17%に据え置きとしました。

（※）従来、加入者割で計算されていた介護納付金は、段階的に総報酬割が導入され、令和2年度から全面総報酬割となりました。

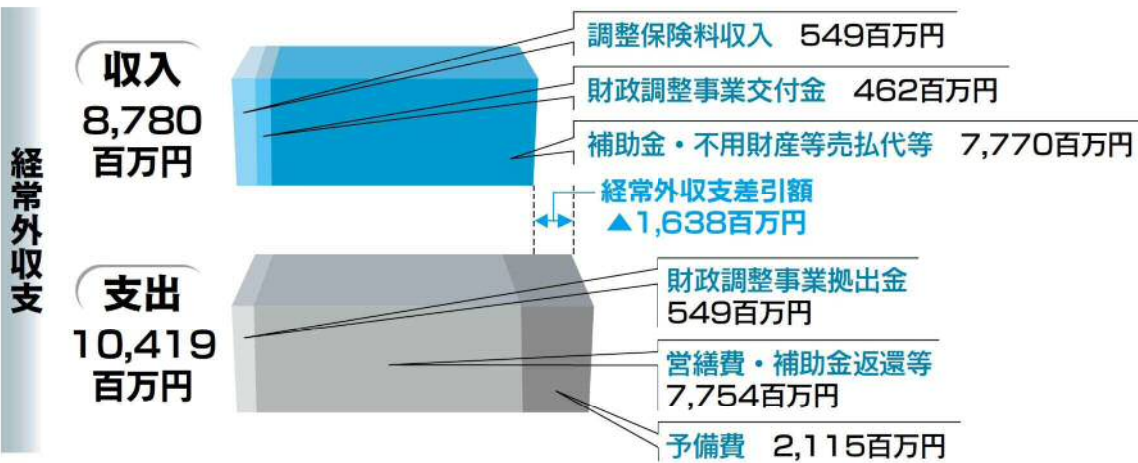
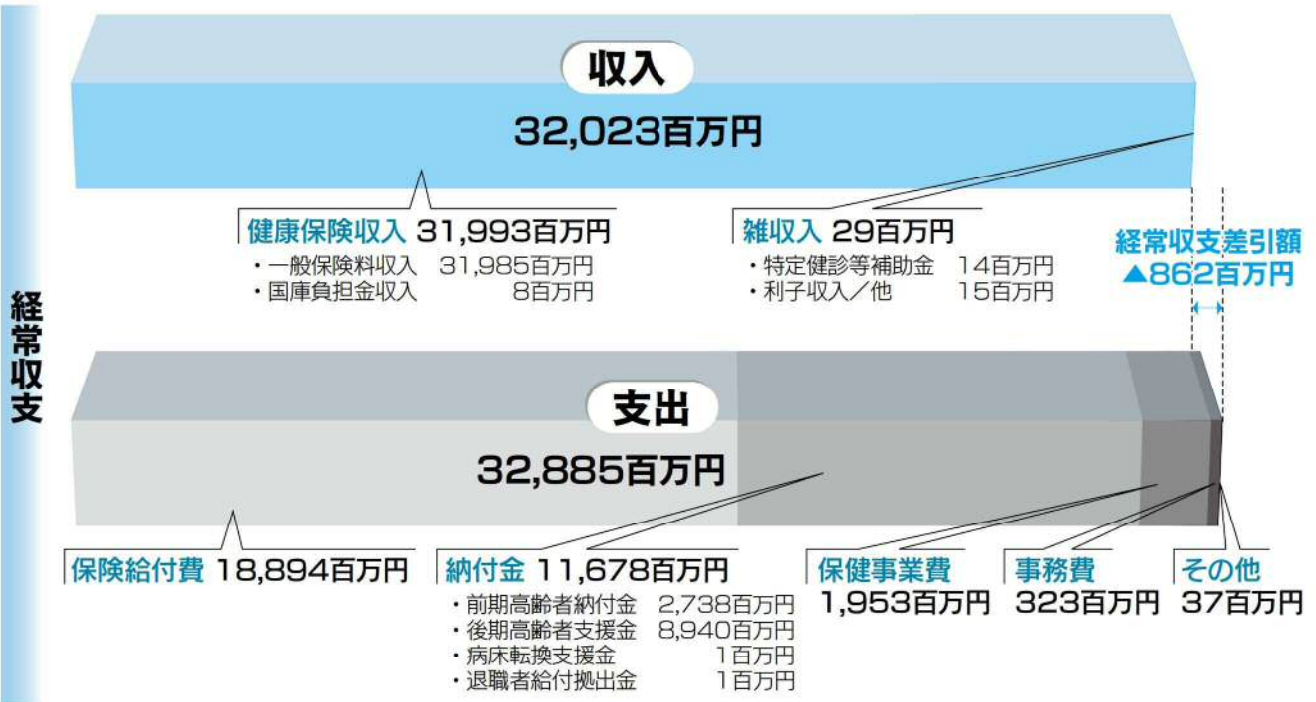
健保組合を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。限られた健康保険料を効果的・効率的に保険の給付や、健康増進・疾病予防のための健診事業等に充てるため、引き続き、医療費節減のご協力をお願いいたします。

無駄のない適切な受診を心がけましょう

- 健康管理を心がけ、生活習慣を改善し、健康づくりに取り組みましょう。
- ジェネリック医薬品を活用しましょう。
- 重複受診（同じ病気で、複数の医療機関等に受診）は避けましょう。
- 休日・夜間・早朝の時間外診療などは、緊急のやむを得ない場合に限りましょう。
- 接骨院等で施術を受けるときは、単なる肩こりや筋肉疲労に健康保険は使えません。

医療費節減のご協力をお願いいたします

一般勘定 令和3年度収入支出予算



介護勘定 令和3年度収入支出予算

